

北山杉を使用した消火活動器材格納庫の設置

先進的な防災活動の内容

小野郷学区自主防災会では、火災発生時に地域住民が使用する消火活動器材格納庫の設置を進めています。

平成16年に簡易水道が通水し、地域内に51箇所の水道消火栓が設置されたことを契機に、毎年消火栓の近くに地域住民の協力で格納庫を設置しており、「北部等山間地域消火活動器材整備助成事業」も活用して、現在17箇所の格納庫が設置できました。

格納庫には、火災発生時に地域住民が協力して消火活動が行えるように65ミリホ

ース2本、筒先1本、消火栓キー1本が収納されています。平成20年4月に発生した倉庫火災では、消防隊が到着するまでの間、地域住民が消火活動を実施し、火災の延焼を食い止めたことで、北消防署から感謝状をいただきました。

また、格納庫は小野郷らしさを出すため、全国でも有名な「北山杉」をふんだんに使用して、見た目も美しく景観に配慮した大変ぜいたくな作りで、地元職人が手間暇かけて一箱ずつ手作りしているだけあって、地域住民にも大好評です。



特記事項

- 地域柄、地域住民の防火防災に対する意識は非常に高く、毎年計画的に行われている格納庫の設置についても、多数の要望が寄せられることから、設置場所の選定に苦慮されています。
- 平成22年度においても、更に2箇所の設置が計画されており、自主防災会のみならず、地元消防団及び自治会とも意見交換を行うなど、設置に向けて自主防災会長としての苦労は計り知れません。

伝統を受け継ぐ町「明倫」

先進的な防災活動の内容

明倫自主防災会は、元明倫小学校を改装した京都芸術センターを中心とした、南北を四条通と三条通、東西を烏丸通と西洞院通に囲まれた地域です。

祇園祭にはたくさんの山ほこが立ち並び、祭の中心地として有名です。その中でもすべての山ほこが通る新町通には、消火器はもちろんのこと、路上に消火栓(水道蛇口にホースが結合出来るようになっているもの。)が設置されており、近くにホースと管そうが収納されています。この消火栓の設置された経緯は不明ですが、祭が本格化すると通りは通行止めとなり、災害が発生したときには重大な被害が出る可能性があるため、先人の方々が考えた自主防災の一つではないかと思われま

す。多くの町内では伝統を守り伝えるために、祭の準備とともに行われる消火訓練で、消火器の取扱方法と消火栓からのホース延長及び放水訓練を実施して、使用方法の確認をします。

訓練参加者の表情は真剣そのもので、ここにも有形、無形ともに自分たちの町は自分たちで守るという自主防災の伝統が受け継がれていると確信しました。



特記事項

- 日ごろから各保存会との連絡を密に取り、ほこ建て等の効果的な日を訓練日に選定すると、多数の方が参加してくれます。
- 訓練当日は、観光客も多いため、落水地点や訓練補助等の安全管理にはいつも以上に神経を使いました。

消火活動に
関する取組

「いざというときの」実放水訓練

先進的な防災活動の内容

旧市内の方々には少し珍しく写るかもしれませんが、右京区京北のほか、北部山間地域といわれる地域には、消火栓のそばに赤い箱が設置されています。中にはホース2本と管そう、消火栓を開ける金具が入っており、火災発生時に近隣の住民が応急的に消火活動をします。(町内のところどころに町有の消火器が設置されているのと状況はよく似ています。)一昨年からこの消火活動器材を購入するに当たり、消防局の

事業として、費用の半額を助成していただいています。地域、市から貴重な経費を使って器材を新調したのですから、いざというときには的確に活用するべく各自主防災部を単位として取扱訓練を実施しています。

地域住民には消防団員OBの方も多く、現役消防団員の指導の下で昔を思い出し、腕に懐かしい放水の反動力を感じながら効果的な訓練を実施しているところ



特記事項

- 実放水といっても、実際に消火栓を開放するのではなく、近くの用水路等から消防団の消防車両等により吸水して訓練を行います。したがってこの訓練を実施するに当たり地元消防分団の協力なしではできません。
- 訓練参加者にはOB消防団員も多く、現役消防団員にとっては、指導する側でありますが、少し緊張する場面もある様子です。
- 訓練用の模擬の消火栓が京北地域にはなかったことから、市内の消防分団が昔使っていて今は使わなくなった(消防団の操法訓練は、現在は小型動力ポンプ操法でしたが、以前は消火栓操法でした。)模擬消火栓を手当たり次第にかき集めました。